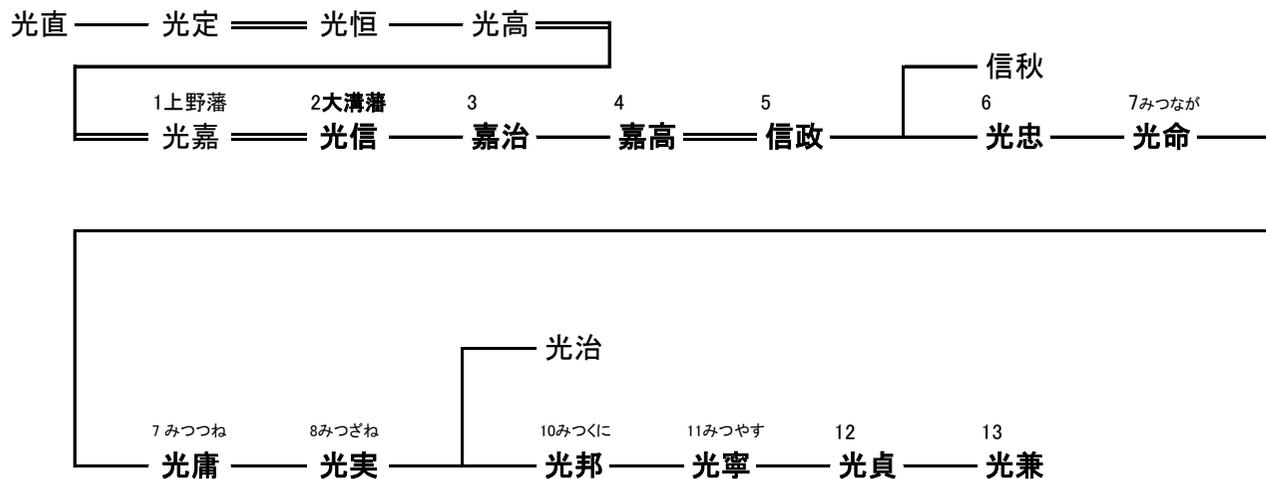




近江国大溝藩分部家略系図

丸ノ内三つ引両



伊賀上野藩から大溝藩を立藩へ

分部家の出自は藤原南家工藤氏流で工藤佑経の6代後裔高景が足利尊氏に仕え、伊勢国安濃郡長野の地頭職となり、その孫、光久が伊賀国安濃郡分部村(現三重県津市)に住居したのが始まりです。

元和5年(1619)徳川家康の10男頼宣(よりのぶ)が紀伊国和歌山藩主となると、上野藩領が歌山藩領となったので、近江国大溝二万石を領して大溝藩を立藩しました。

参考文献 『江戸時代全大名家事典/東京堂出版』より